

「海外研修の『文脈』」

教育企画推進部 吉井 謙太郎

2 回目となる SSH 台湾研修を無事に終えることができました。今回は台風の影響で、予定されていた行程のうち 3 日目以降を大幅に縮小・変更することとなりましたが、大きなトラブルなく無事に全員が研修を遂行することができました。保護者の皆様、先生方に厚く御礼申し上げます。

昨年度の研修 1 期生が「成果を地域に還元し、学校の中で実践的に防災体制の改善に活かしていく」という形を構築してくれたので、今年度はその流れをさらに深めていくこととなりました。長田消防署とのコラボレーションにより、台湾研修での知見を活かした防災学習の構築に取り組みました。また、羅東高中が 1 月の来校訪問を踏まえて「さらに探究を通じた国際交流を図りたい」ということで、2 泊 3 日のホームステイを企画して下さり、学校と各家庭の総力を挙げた歓待を受けました。来年 1 月の本校訪問に向けて、さらに充実した交流ができるよう準備を進めています。

私は、海外研修に（特に、その企画において一さらには、コロナ以後の企画立案においては）重要なのが「文脈」と考えています。つまり、何を動機として研修が成り立っており、その意義は何で、どのようにつながっていくのが重要だということです。ただ珍しいものを見て帰ってくるだけなら、わざわざ学校で企画する必要はないのです。

長田高校にとってはそれが「SSH」であり、「探究」であり、「イノベーション」であり、「防災」である、ということなのです。それらは何も目新しいものではなく、コロナ以前から長田高校が実施していたオーストラリア研修でも、「探究スキルとプレゼンテーションスキルの向上」を意識したプログラムが組まれていました。当時は特色類

型を中心に進められていた探究活動でも、地域課題に目を向けた防災系の探究が文理を問わず展開されていました。こうした流れのもとに、「SSH」という要素が組み合わさって台湾研修が成り立っています。10 月 24 日にも台湾から新竹高中が来校しますが（巻末「お知らせ」を参照）、これも長田高校がここまで進めている事業の流れにあるものです。ぜひ、たくさんの生徒と交流を持ってほしいと考えています。

世界は多様性を標榜しながら複雑で、それでいて一つに繋がりがつあります。台北の街にはいたるところにセブンイレブンがあり、店の BGM は藤井風「きらり」です。大量に並んだ綾鷹に手を伸ばし、日清のカップヌードルを掴んで PayPay で支払いを済ませる一我々が生きるのは、そういう時代です。その中であって、柔軟な思考と試行を重ねながら、「世界を深められる人材」になってほしいと願っています。

第 2 回 SSH 台湾研修 (7/22~7/25)

実施報告

〈事前学習〉

台湾での実際の研修の前に、4 月から私たちは事前学習を行ってきました。現地での学びをより深いものにするために設けられた機会は、どれもとても有意義なものでした。カトリックたかとり教会や人と防災未来センターに伺い、実際にスタッフの方から話を伺ったり、中国語講座では自分の名前の読みなどを教えていただいたりと、台湾研修への土台を固めることができました。（上田）



〈1日目〉

事前準備を経て、ついに当日！飛行機が少し遅延したものの無事台湾に到着しました。空港では、羅東生が、歓迎の言葉と一人一人の名前が大きく書かれた紙を持ってあたたかく迎え入れてくれました。さらに、台湾名物のパイナップルケーキや軽食などを一人一人に配ってください、手厚い歓迎に緊張も和らぎました。(材井)



〈TSMC〉

TSMC 台積創新館を羅東高中の生徒と見学しました。TSMC とは半導体シェア世界第一位の企業です。ここで、創業者モリス・チャン氏の理念や企業の歩みを学びました。また VR を使って未来の街や生活も体験しました。この見学は初めて羅東の生徒と一緒にこなったプログラムで、仲良くなれるか不安でしたが、展示を見た後にはすっかり仲良くなっていました。友達には本当に優しく接してくれ、初日とは思えないほど会話も弾み、楽しい時間を過ごすことができました。(上野)



〈ホームステイ〉

○現地の生徒の家庭に2日間ホームステイさせて頂きました。1人1家庭が大半で、英語を使ってコミュニケーションをとることは容易ではありませんでしたが、お互いに熱意で会話する時間は本当に貴重な時間でした。ホームステイの家族と一緒に食事をしたり、買い物をしたり、ゲームをして遊んだり、日本とまた違った良さをめいっぱい感じる事が出来ました。

(大西)

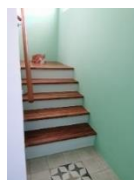
○1人でのホームステイへの不安で押し潰されそうな私であったが、実際は非常に充実したものだ。台湾特有のフルーツを食べさせてもらったり、「推しの子」を日本語声優×日本語字幕で見せてもらったり(おかげで緊張も幾分和らいだ)、好きなタイプについて話したり(台湾でも塩顔ソース顔はあるらしい)。唯一の心残りといえば、ホストファミリーの犬になつかれなかったことくらいだろう。そして、言語は違えど喜怒哀楽の感情は共有できると気づけたことが何よりの収穫であったと感じている。(寺西)

○私は双子の姉妹の家庭にホームステイしたので、長田生2人で宿泊しました。

家に到着してまず驚いたのは、家の中にエレベーターがあったことです。4階まで度々使わせてもらいました。

晩ご飯は飲食店に連れて行ってもらい、鍋をご馳走になりました。立派な巨体の飼い猫の紹介やボードゲームをしつつ、学校の話や台湾の流行などを教え合いました。

台湾という国を高校生から深く知ることができ、とても刺激をもらいました。(永田)



〈2日目〉

〈探究発表会〉

○探究成果発表会では、私たちが「防災と○○」というテーマで行っている探究の発表を

し、羅東の生徒の方が行っている探究の発表を聞きました。羅東高級中学校で発表をしたのですが、発表の前に生徒の方が学校案内をしてくれました。学校の図書室のような場所にはスラムダンクの漫画が置いてあり、驚きました。

(武田)

○2日目の探究成果発表会では、長田高校の生徒と、羅東高校の生徒がお互いに英語で自分たちのグループの探究について発表を行いました！また、クイズがあったのですが、正解するとプレゼントを貰うことができ、私はスマホスタンドにもなる羅東高校のキーホルダーとカッコいいボールペンをゲットしました！今も愛用しています！（渡邊）



〈発表内容〉

【防災とリラックス】

○避難所での生活はストレスが伴い、災害関連死が多いことが問題になっている。本研究では、色や図形はリラックス効果を持つのかを探究することを通して、避難所に適した壁紙を作ること为目标にしている。この視覚情報は感情に影響を与えるという先行研究に基づいている。長田高等学校の生徒に二種類のアンケートを実施し、合計 270 個の回答を得た。その後先行研究と同様に色と図形を用いた壁紙を利用し、81 人に実験を行った。

【防災と心理学】

○近年、地球温暖化により世界中で異常気象が多発し、防災の意識が高まっている。そこで台湾では洪水、日本では津波と件数が多い水害に

焦点を当て、若年層により効果的な緊急速報について調査を行う。日本での調査の結果、文字情報よりも視覚的に訴えるほうが、避難促進に効果があること、現在の避難者数を表示すると、避難者数が多い場合、避難促進効果が高く、避難者数が少ない場合は逆効果となることが明らかになった。

【言い伝えと防災】

○自然災害が多発する日本において、国民の防災への関心は高い。しかしながら、災害への切迫感は希薄化しており、実践的な防災対策が不十分である。このような状況下で、災害伝承の防災対策への有効性が再認識され始めている。そこで本探究では、言い伝えを用いて実践的な防災対策の進展へ向けた考察を行う。

【防災と太陽光エネルギー】

○太陽光発電は再生可能エネルギーの一つで環境に優しいだけでなく、災害時の避難場所に設置することで電気を供給できることが注目されている。そして現在、日本と台湾では太陽光パネルの設置率に差が生じている。日台の太陽光パネルの設置場所や補助金額の差などを比較することで、日本で太陽光パネルを普及させたり、その効率的な発電場所を見つけたりする手がかりになると考える。



〈宜蘭伝芸園区〉

2日目の午後に羅東高級中学校の生徒と宜蘭伝芸園区を訪れました。ここには台湾の伝統的な建物や、おみやげ屋さんがたくさんありました、が、なんと途中から見たことがないほどの大雨が降ってきました。まるでバケツの水をぶちまけたような!? わたしたちは園区内のカフェに入り、雨宿り。羅東高級中学校の生徒とたくさんお話をして仲良くなれました。(古川)



〈歓迎パーティー〉

2日目の夜、台北市内のレストランで羅東高中のみなさんに歓迎パーティーを開いていただきました。ホストファミリーと隣に座り、それぞれの国や文化について英語で会話しました。ここで実感したのは、台湾の人の歓迎の精神です。とても食べきれないような量の料理が次から次へ、まだ残っていても少し小さなお皿に移して、空いた机のスペースにまた新しい料理が運ばれてきます。どれもとても美味しかったです。最後には、私たちから感謝の気持ちを込めて校歌を歌いました。私は全然音程が取れなかったのですが、席に戻ると、驚きながらすごく良かったと褒めてもらい嬉しかったです。

(高橋)



〈3日目〉

○3日目は本来台湾地震国家工程中心に行く予定でしたが、台風により閉鎖となったため、龍山寺に向かいました。台湾独自の美しい装飾がとても魅力的なお寺でした。細かい装飾の説明やお供えするものなどについて説明をしていただき、有意義な時間を過ごせました。

お昼ご飯は金品茶楼というお店でいただきました。シュウマイや小籠包が美味しかったです！研修のメンバーとも打ち解けられて素敵な時間を過ごせました。(谷口)

○3日目の夜は本来民泊の予定でしたが、台風によりホテルでの宿泊に変更となりました。

夜にはみんな同じベッドで寝たり、しょうもないゲームをして盛り上がり、修学旅行を先取りしているような気分でした。想定外のホテル宿泊でしたがお部屋もとても綺麗で、朝のbuffetでは台湾らしいお料理も味わえて、とても満足した状態で旅を終えることができて良かったです。(松田)



〈4日目・研修後〉

台湾研修、緊張したけど楽しかった～！面白かった～！

、、、これで終わりではありません！！

私たちは今、11月にある「減災復興学フォーラム」(災害からの復興・復旧を考える分野についての探究発表会)に向けて、台湾研修で行った探究をさらに進め、深めています。

また、10月20日の”真野地区秋祭り2024”に地震にまつわるステージをします。地域に向けて初めての発信、活動なので光栄であると共に緊張と興奮を感じています。

このような場を設けてくださった方々には本当に感謝の気持ちでいっぱいです！

今後も、台湾研修で一貫して学んだ地震についての知識を基に、自分たちで考えたことや感じたことを広めるべく活動していきたいと思います！(中村)

お知らせ

・10/24(木)

台湾国立新竹実験高級中学校 来校交流

→授業見学や探究交流会を実施予定です。昼食時や放課後に交流をしながら校内を案内するスタッフを募集しています。

(事前打合せ: 10/22(火) 12:30- 視聴覚室)

申込は以下のフォームから！

<https://forms.gle/faRwQBk1rHCWiQiW7>

・11/4(月・祝)

五国SSH連携プログラム

「高校生のための減災復興学フォーラム」

(詳細は教室掲示) 参加希望者は教育企画推進部の吉井まで。